

在り方検討会の進め方（案）

2018年
11月

12月

2019年
1月

2月

5月頃

2020年
3月頃

3回程度

第1回検討会
12/4

現状・課題について議論

重点領域など
推進の在り方について議論

在り方についてとりまとめ

・必要に応じて、
専門家等のヒアリングを実施

反映

J-GRID
事後評価
(暫定)

J-PRIDE
中間評価
(暫定)

第2回検討会
1/11(予定)

第3回検討会
2/4(予定)

J-GRID
事後評価
・
J-PRIDE
中間評価
とりまとめ

感染症研究の推進の
在り方について

事業評価

(参考)

A
M
E
D

J-GRID
課題ヒアリング

J-PRIDE
課題ヒアリング

J-GRID
課題事後評価

J-PRIDE公募
課題事後評価

事業評価の進め方（案）

	感染症研究国際展開戦略プログラム（J-GRID） 事後評価	感染症研究革新イニシアティブ（J-PRIDE） 中間評価
目的	J-GRIDの進捗状況・成果・課題等を把握し、今後の海外研究拠点を活用した感染症研究等の在り方や、有効な感染症研究事業の展開に資することを目的とする。	J-PRIDEのこれまでの進捗状況等を把握し、今後の有効な感染症研究事業の展開に資することを目的とする。
評価の観点	<p>①事業運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目標の適切さ ・目標に向けた事業の実施体制の整備、PS・PO及び事務局等の取組の適切さ -進捗管理、課題・研究機関間連携の推進 等 <p>②事業目標の達成状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性（国費を用いた研究開発としての意義） -社会のニーズへの適合 -国の関与の必要性・緊急性 -政府方針への合致 ・有効性（新しい知の創出、人材育成） -感染症の流行に関わる要因の解明に資する成果の創出 -感染症の診断、予防、治療薬候補開発の進展 -病原体データベースの構築と利活用 -海外研究拠点を活用した我が国及び現地国研究者の育成 ・効率性（計画・実施体制の妥当性） -研究開発をより効率的かつ効果的に実施するための方策 特に、研究体制の構築、他機関との連携、外部資金の獲得 <p>③総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた成果・効果やその他波及効果が得られたか ・成果を踏まえた今後の展望 	<p>①事業運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目標の適切さ ・目標に向けた事業の実施体制の整備、PS・PO及び事務局等の取組の適切さ -進捗管理、課題・研究機関間連携の推進 等 <p>②事業の有用性・進捗状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性（国費を用いた研究開発としての意義） -社会のニーズへの適合 -国の関与の必要性・緊急性 -政府方針への合致 ・有効性（新しい知の創出、人材育成） -画期的な手法による高病原性病原体等の感染症の創薬シーズの創出 -次若手研究者や、病原性の高い病原体を扱う研究者等の養成 ・効率性（計画・実施体制の妥当性） -研究開発をより効率的かつ効果的に実施するための方策 <p>③総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、優れた成果が得られることが見込まれるか ・現在設定している目標の妥当性
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本検討会において事業の成果、運営状況等に関するPS等のヒアリングを実施し、意見を集約して、暫定的な評価をとりまとめる。 ・その後、2019年度にAMEDが実施する個別課題の評価結果も参考としつつ、本検討会としての最終的な評価をとりまとめる。 ・第三者の権利利益を害するおそれのある内容を取り扱うことから、本検討会設置要綱に基づき、この事業評価の議論は、非公開とする。 	
事業関係者の意見の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・J-GRID（第3期）、J-PRIDEの事業経費から研究費、人件費、謝金等を受け取っている事業関係者（研究代表者、PS、PO等）の意見については、参考意見として取り扱う。 	